

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホームひまわり A棟		
所在地	郡山市安積4丁目334-1		
自己評価作成日	令和5年1月22日	評価結果市町村受理日	令和5年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和5年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意向を出来限り把握できるような支援を目指しています。また、個々に合わせたサービス提供を心掛けております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 協力医(内科・歯科)との連携が図られ、内科はほぼ毎日往診体制がとられている。歯科の往診もあり、訪問看護師による健康管理が行われており、安心して医療が受けられるよう支援されている。また、終末期のケアについて、家族が付き添い宿泊可能としており、医師・家族・事業所が方針を共有しながら看取りを実践している。
 2. 利用者の好みを大切に献立を作成し、食材購入や菜園で収穫した野菜、いただいた野菜を使い、食事作りに利用者の参加を得ながら、美味しいと言ってもらえる手作りの食事を提供している。また、利用者の希望を取り入れたお祝い膳や寿司等の出前、季節の行事食を多く取り入れ、満足し楽しんでいただけるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様の細かな変化や対応をホウレンソウで言葉で伝え実践している	理念を玄関やスタッフルーム等に掲示し、朝のミーティング時に唱和している。事業所では「七つの心」を念頭においたサービス提供を心がけ、理念に沿った支援を行っている。また、年度末に理念の振り返りと見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、密な関係は避けているが、情報交換は出来ている。	地域の自治会に加入している。コロナ禍以前は自治会主催の各種行事の取り組みがあったが、現在は自粛している。広報回覧により、地域情報等の共有は継続されている。コロナ禍前は、事業所の夏祭りや近隣のお寺の祭り、公民館活動に参加し交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は地域貢献までは至っていないが、今後は関係機関や職員と話し合いながら取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナ感染防止の為、現在会議は行っていないが、時期をみて開催しサービス向上に努めたい。	コロナ禍で運営推進会議は書面開催としている。各委員には利用者状況やヒヤリハット・事故報告、行事開催等の資料を郵送し、事業所の実情を知らせている。	運営推進会議メンバーには、書面での報告に留まらず、アンケートを同封する等を行い、忌憚のない意見をいただきサービス向上に活かすことが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当者に情報を教えていただいたり、課題について相談をしている。	市の担当者とは、メールで情報提供がある。事業所からもメールで介護保険に関する質問や各種報告、困難事例の相談等を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を行い全職員が実践している。家族様から要望があった場合は、十分に説明し納得いただいている。	身体拘束廃止委員会を中心に、会議及び研修会を開催(書面)し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。特にスピーチロックや利用者への言葉遣いなどを意識しながら、身体拘束の具体的な行為を理解した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して虐待について理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通して制度の理解や知識を高められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約等不明な点を随時確認しながら進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	些細な事でも親身になり、話しやすい環境に努めている。	日常生活のかかわりの中から利用者の声に耳を傾け、利用者の思いを汲み取るようにしている。家族からは、面会時や電話等での連絡時に要望や意向を把握し、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や要望を聞く機会を設けている。	職員からの意見や提言等は会議やユニットリーダーを通して聞き取っている。また、管理者は業務の中でも常に職員の意見を聞くよう努める他、年2回の個別面談を通して意見や提言を聞き、出された意見は運営に反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた研修会の参加、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議にて報告、内容を共有し実践に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で意見交換し、様々な視点を反映させる事でサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心していただけるように、不安に感じる気持ちに耳を傾け、気持ちを受け止め、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が困っている事に耳を傾け、迅速に対応している。また、毎月の手紙にて利用者様の現状を伝える等関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族様の要望を基に、その時点で何が必要か見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活で本人が出来る事を見つけて行っていただき、同じ目線に立って利用者様と信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も参加出来る行事を考え利用者様と楽しめる機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が過ごしてきた時代や故郷を知り、コミュニケーションが取れるように努めている。行きつけの床屋に継続して行けるよう支援している。	毎月、お便りで利用者の生活状況を家族にお知らせしており、家族からも手紙や友達からの贈り物などがあり、交流が続いている。また、新聞のお悔やみ記事から、利用者から告別式に参列したい申し出があり、職員とご焼香に伺うなど馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格や利用者様同士の関係性を把握し、共に支え合うような支援が出来るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、困ったことがあれば相談していただけるよう、お話している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々に合った支援が出来るように職員で話し合い、情報を共有できるように努めている。	利用者とのかかわりの中で、会話やスキンシップを大切に、利用者の思いや意向を把握するよう努めている。意思疎通の難しい利用者には表情や動作などから意向を汲み取り、生活歴等から本人本位に検討し、できるだけ意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族様から生活状況をうかがい、職員間で共有し、これまでの暮らしを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全体が把握出来るよう、ケース記録や業務日誌を用いて情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く暮らせるため、ご本人や家族様からの希望に基づき、職員から収集した情報や主治医や看護師の意見を確認して作成している。	新規入居者は生活環境が大きく変わることから、本人や家族の意向を大切に1ヶ月の介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、会議で話し合い、家族と本人の意向を反映した介護計画を作成している。心身の状況等の変化が見られた際は、関係者が話し合い変化に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を確認し、職員間で話し合い、介護計画の実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時に発生する状況に応じて職員間で話し合い、ご本人に合わせたサービス提供が出来るように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在コロナ感染防止の為、地域活動は出来ない状況にあるが、時期をみて地域との関わりを持てるよう努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療受診について話し合いを持ち、ご本人家族様の希望する医療機関で受診が出来るように支援している。協力医院による往診体制もできている。	入居時、利用者・家族が希望する医療機関について相談をもち、現在ほぼ全員が協力医の往診を利用している。協力医はほぼ毎日来訪し、緊急時の対応も可能である。ほかに訪問歯科診療(月1~2回)や看護師による健康チェック(週1回)が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、看護師が来園し健康チェックをしている。また体調の報告をし、主治医への報告や指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様や病院関係者との情報交換を行い、現状を把握し対応できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族様と話し合い、事業所として対応可能な内容について説明し、意向の確認をしている。職員間での情報共有をこまめに行い、支援に取り組んでいる。	入居時に「重度化・看取りに関する指針」を説明し、「終末期の生活支援に関する覚書」に同意を頂いている。状況が変化した時は協力医から再度指針に基づく対応説明があり、覚書並びに同意書をいただいている。チームで終末期に寄り添い、逝去後はケア内容を職員で振り返る時間をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には適切な対応が摂れるようマニュアルを用いて勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や連絡網訓練を行い、対応できるようにしている。避難の優先順位も分かりやすいように目印をつけている。運営推進会議にて協力を呼び掛けている。	総合訓練(年2回)を実施し、消防署には訓練実施前と実施後それぞれに計画書と報告書を提出しているが、コロナ禍により立ち会いは得られていない。その他、月ごとに消防設備機器の説明やDVDでの研修を行っている。BCPは本社で作成予定である。	現行の総合訓練に加えて、火災・地震・風水害等に備えた訓練及び特に夜間時の災害を想定した避難訓練を数多く実施することが望まれる。また、備蓄品一覧のリスト作成も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや人格を尊重し、傾聴を行ったり誇りやプライバシーを損ねないような話しかけの工夫をし対応している。	理念に基づき、業務優先ではなく、利用者の希望を叶えるケア実践に努めている。排泄や入浴場面ではプライバシーの尊重を徹底し、羞恥心に配慮した対応を心がけている。スピーチロックにも注意して不適切な言葉かけには互いに注意し合うよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや関わりを通じて信頼関係を築き、思いや要望を表せるように、言葉かけや環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の思いを尊重し、本人のペースに合わせ穏やかに生活出来るように支援している。希望や要望があれば可能な限り実現できるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望に対応し、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材を用いたり食べたい物を聞いて献立に取り入れたり、出前で好みの物を注文したりし、食事を楽しむことが出来るよう支援している。	食材は地元のスーパーからの調達その他、近隣からの差し入れや事業所で収穫した野菜の活用など、旬の味わいが楽しめる支援をしている。調理の過程に利用者が積極的に関わり、職員が学ぶこともあると伺う。出前や芋煮会など様々なイベント食も開催している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	表に記入し、食事、水分量を把握している。こまめな水分提供を行い、水分量が不足しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた方法で行い、夜間は消毒のため、預かり管理している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、声掛けにより誘導を行っている。トイレでの排泄が出来るよう声掛け支援を行っている。	排泄チェック表や仕草・表情などを観察し、リハビリパンツ等を使用しているも、誘導のうえ、トイレで排泄できるように支援している。丁寧な対応により入居後症状が改善された方もいる。パッド類が濡れる前にトイレへ誘導することで快適性と自立性を高めるケアを実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトの提供や、こまめな水分提供を行い、コントロール出来るよう、主治医と連携しながら便秘薬を内服していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴出来るように声掛けをし希望に合わせて支援している。浴槽のまたぎができない方はシャワー浴と足浴にて対応している。	同性介護を基本として週2～3回入浴している。障がいや体調に応じてシャワー浴(手浴・足浴を含む)を実施している。希望によって職員は浴室外(ドア越し)からの声かけなど、プライバシーにも十分配慮している。季節に応じ、菖蒲湯・柚子湯なども提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時の状況に応じて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの指示や薬剤情報を確認し、共有化を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの力を活かした役割をお願いし、都度御礼の言葉をかけている。時代劇や歌のDVD等を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの為、現在は控えているが買い物に出かけたり、外出支援(ドライブ等)を行っていた。	感染対策をとり、名勝地へドライブを実施している。また、事業所周辺の散歩や自宅への外出、初詣、知人の告別式への列席、馴染みの理髪店での散髪等、家族の協力も得ながら日常的な外出を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で少額のお金を持っている方、行きつけの床屋に行った際の支払いを自分で行っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様より電話が来た際には、ゆっくり会話が出来る環境作りをしている。いつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた温度、湿度の調整、光の具合やテレビの音量に気を付けている。装飾も、レク活動を通して季節を感じられるように工夫している。	天窓のある明るいリビングは、毎日の清掃や温度管理、適切な換気等がなされ、快適な共用空間となっている。畳のスペース(掘りごたつ)や複数箇所にソファが設置され、思い思いの場所で寛げるよう工夫されている。壁面には季節に応じた装飾が施されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや居室等で自由に過ごしていただいている。暖かい日にはテラスで日光浴をして過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	好みの物や使い慣れたもの、写真等を飾る等して居心地よく安心して過ごせるように支援している。	居室には、クローゼット・洗面台(鏡付き)・エアコン・テレビ台などが整備されている。自宅から家族写真やぬいぐるみ、遺影や位牌を持ち込まれる方もいる。壁には写真入り色紙などが飾られている。看取り期には家族も宿泊し、最期までその人らしく過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には目印をつけ、場所が把握できるようにしている。		